

学習内容報告書 フォーマット

学校名	松本市立 芳川小学校
授業者	小橋光恵 都筑雅美 黒田和子 常田清絵

1. 単元計画

1-1. 単元名

きょう土の発てんにつくす ～四ヶ堰と百瀬三七～(地域の特色を生かした持続可能な海洋教育をめざして)

1-2. 学年

4 学年

1-3. 教科 (単元を実施する教科を全てお書きください)

社会・総合的な学習

1-4. 単元の概要

・地域の先人の功績である、四ヶ堰の由来や業績を調べる。
当時の野溝・平田地区の人々は奈良井川の水害や干ばつにより水の確保が難しく（農業用水の供給が安定せず）稲作ができず生活が困窮していた。
このままでは野溝・平田地区の生活がますます苦しくなるばかりだと考えた百瀬三七は、周りからの反対を受けるが、脆弱な旧堰を新しい堰に作り替えることを提案するため、夜に使用人を連れ奈良井川地積の測量をし、それをもとに新堰の設計を完成させた。
しかし、資金不足、他地区からの過干渉、法制度などの困難な課題にぶつかりなかなか実現に及ぶことができなかった。
そこで、用水組合、対岸の村々、松本藩などの行政機関などを5年かけて説得し堰の着工にこぎつけた。
その後、堰の工事は1年足らずで完成した。
これらのことをもとに、堰作りに着手した百瀬三七の願いや、着工までの苦労や業績、また堰ができたことで人々の生活がどのように変わっていったかを学習する。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

・当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して見学したり調査したり資料から年表にまとめたりすることを通して、百瀬三七や村人たちの願いや努力について具体的に考える。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

<ul style="list-style-type: none"> 地域の発展に尽くした先人の働きに着目し、人々の願いや様々な苦労や努力について考え、主体的に学習問題を追究し表現しようとする事ができる。

1-7. 単元の展開 (全 14 時間)

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<ul style="list-style-type: none"> 水田面積の推移グラフを見て気が付いたところを出し合い、明治になると村井町で水田が増えたのはなぜかを考える。(社) 	<ul style="list-style-type: none"> 昔は稲作に適さない土地柄であったことがわかる。 田んぼが広がったのは四ヶ堰が作られたことと関係があることに気が付くことができる。 ④私たちの松本市 (P120. 125) 水田面積推移グラフ 百瀬三七翁石碑写真
2	<ul style="list-style-type: none"> 学校近くの堰(用水路)を見に行こう。(総) (堰の様子を見ながら堰がどこから始まってどこにつながっているか興味を持ち、疑問点や気になったことを記録しておく。) 	<ul style="list-style-type: none"> 興味関心を持ち、調べてみようとする姿が見られる。 ④学区内の地図
3	<ul style="list-style-type: none"> 堰がどのようにつながっているのかを調べる。(社) 	<ul style="list-style-type: none"> 奈良井川のかなり上流に取水口があることに気が付き、これだけの距離を人の手で掘ってきたことに気が付くことができる。 ④四ヶ堰マップ 円筒分水や取水口・深堀などの写真
4	<ul style="list-style-type: none"> 実際に土を掘って堰作りの体験をしてみよう。(総) 	<ul style="list-style-type: none"> 昔の道具(じょれん・くわ・つるはし・もっこ代わりの棒と入れ物)などを使い、校庭を掘ってみることで、昔の人々の工夫や努力、苦労を感じることができる。
5	<ul style="list-style-type: none"> 古い堰があったのに、どうして百瀬三七は新しい堰を作ったのか考える。(社) 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み、当時の野溝・平田地区が水に困って苦労していたことを知ることができる。 ④私たちの松本市・百瀬三七資料(芳川小学校所蔵) 野溝平田に関わる歌
6	<ul style="list-style-type: none"> 百瀬三七の業績と意思について調べる。また、どれくらいの期間と費用、人員が必要であったのかも調べる。(社) 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み、家族、村の人、役場、対岸の村などから反対されつつも、あきらめず説得し続けた三七の意思とそれに呼応した周りの人々について理解することができる。 ④私たちの松本市・百瀬三七資料(芳川小学校所蔵) 市民タイムス記事

7	<p>・四ヶ堰の円筒分水について調べる。 (社)</p>	<p>・水を分けるのにけんかになるほど、水が大切だったことに気が付き、公平に分けるための工夫を理解することができる。</p> <p>④円筒分水の写真・百瀬三七資料(芳川小学校所蔵)</p>
8 ～ 11	<p>・円筒分水を見に行こう。 (総)</p>	<p>・円筒分水を見ることで水を公平に分ける工夫を理解することができる。</p> <p>・水をきれいにする工夫(沈砂池やごみ収集する機械)に気づく。</p>
12	<p>・堰が完成した後の、人々の生活がどのように変わったのかを考える。 (社)</p>	<p>・「芳川」の名前の由来や芳川小学校の校章の由来など、4ヶ村(平田、野溝、小屋、村井)の人々の願いがこもった「芳川村」であることを知る。</p> <p>④校章の写真・由来</p>
13	<p>・地域講師のお話を聞こう。 (総)</p>	<p>・明治から昭和にかけての堰にかかわる人々の暮らしを見ながら、四ヶ堰の作られる様子や三七の業績について詳しくお聞きする。</p> <p>④四ヶ堰パワーポイント</p>
14	<p>・今までの学習を振り返る。 (社)</p>	<p>・四ヶ堰と百瀬三七、水の大切さ、芳川村の成り立ちなどについて考えたことを学習カードに書くことができる。</p>

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 14 時間中の 14 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

四ヶ堰と人々の暮らしを学習してきた子どもたちが、これまでの学習を振り返ることを通して、水を得るのはとても大変であることに気がつき、水資源の大切さに気がつくことができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1, 今までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none">・昔の野溝・平田地区は水が不足していて、土地があっても稲が十分に育たず貧しい暮らしをしていた。・水をめぐって、けんかや争いがあった。・旧堰では、大雨や洪水で壊されたり流されたりして、水の供給が安定しないことが多かった。・百瀬三七が周りを説得したり、土地の計測をしたり、行政に掛け合ったりして、新しい堰を作ってくれたから、みんなの生活が豊かになってきた。	<ul style="list-style-type: none">・学習してきたことを想起できるように、資料を提示したり、学習カードを見返すよう促したりする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">学習問題 四ヶ堰について学習したことをまとめよう。</div>	
<p>2, 学習カードに今までの内容を振り返って、感想や次に調べたいことなどを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none">・百瀬三七さんのおかげで今は田んぼがたくさんある。・昔は貧しかったんだなあ。・水がこんなに大切だとは思わなかった。・この堰はどこにつながっているんだろう。・堰の脇に落ちていたごみはどうなるんだろう。	<ul style="list-style-type: none">・見学の時の写真や講師のお話の時のパワーポイントなども写しながら、考えさせる。 <p>【評価】 学習してきた内容を踏まえて、自分の考えや思ったことを書くことができる。 (学習カード)</p>

3. 今回の活動の自己評価

- ・自分たちでつるはしとか使って土を掘ったときは2時間で1mくらいしか、しかも浅くしか掘れなかったのに、1年間でこんなに長い距離を、しかも深く掘れたなんて、昔の人はすごいなと思った。
- ・昔は水が少なくて、「粟飯野郎」なんて言われていて、貧しかったのに、百瀬三七さんが堰を作ってくれたから、今はたくさん田んぼがあって、畑もあって、豊かになれたから、百瀬三七さんにありがとうって言いたい。
- ・四ヶ堰の円筒分水を見に行ったら、水がたくさん湧いていた。なぜ円い形なのか不思議だったけど水を公平に分けるためだとわかって、水ってとても大切なんだなと思った。
- ・堰の中や円筒分水の周りにもごみがたくさんあって、水が汚れるからごみは捨てちゃいけないなと思った。

学習カードの最後のまとめに、上記のような児童の感想が書かれていた。水の大切さに気づくとともに、堰や円筒分水前の機械で集められたごみにも注目し、そのごみの処理の仕方にも関心を持っていた。

4. 今後の課題

- ・四ヶ堰を学習することで水の大切さを実感し、その水が奈良井川から取り込まれてまた奈良井川に合流することに気がつくことのできた児童がいた。この後、普段自分たちが使っている水道の水も、どこかから取り入れられて、使った後は川に戻るのではないかと考えた子どもたちと、浄水場見学と下水処理場の学習を行う。また、四ヶ堰の周りのごみにも興味を持った子どもたちにごみ処理の仕方も学習する。
- ・地図を見ながら、奈良井川が名前を変えながら新潟の日本海につながっているという意識づけはできた。また、堰のごみなどから、水の流れによってごみが下流まで流されてしまうことにも意識が向いていた。ただ、海は遠い所にあるめったに行かないところというイメージは払拭しがたく、もっと身近に感じられるような環境を作っていきたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点